

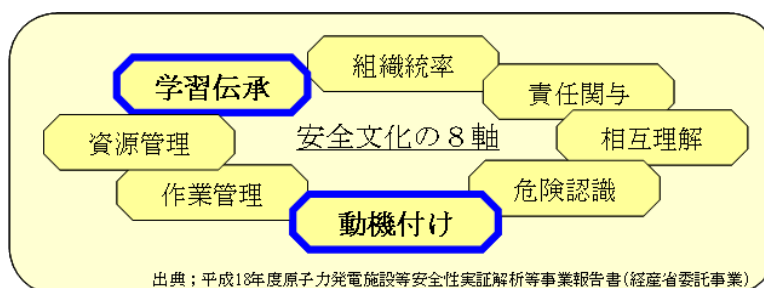
石油化学工業協会の保安・安全への取り組み

2013 年 2 月 20 日

石油化学工業協会

1. 基本的考え方

- 会員各社の徹底した取り組みが基本
- 石化協としては基盤としての安全文化の強化に重点（下図 学習伝承 参照）



2. 現状

学習伝承

(1) 事故情報の共有化

些細な事故でも、その都度背景を含めて会員間で情報を共有。

- ・ 類似事故の再発防止に資するため、事故情報を会員企業に連絡し、2012 年は 20 件の事故について共有化を行った。

(2) 経験の共有化

コンビナート現場の管理者に「事故の語り部」から経験、思いを伝承。

- ・ 第 7 回事故事例巡回セミナーを 2012 年 8 月 9 日に鹿島地区で開催し、現場担当者等 119 名が参加した。第 8 回は 2013 年 3 月 11 日に千葉地区で開催予定。

(3) 相互啓発

①保安推進会議

1 日かけて各社の保安対策の相互啓発を行なう。（毎年 10 月、約 200 名参加）

- ・ 第 30 回保安推進会議を 2012 年 10 月 18 日に東京石垣記念ホールで開催し、会員各社の本社、事業所、関係省庁等 230 名が参加した。

②保安研究会

プロセスの異なるプラントごとに現場管理者が相互啓発。

（エチレン、B T X 等 7 研究会、2012 年度は延べ年間 17 回、約 350 名が参加）

- ・ 各保安研究会独自の保安に関する情報交換に加えて、本年度は、「重大事故防止への取り組み」の一つとして事故事例の演習等の取り組みを行った。

動機付け

(1) 保安表彰

忘れられがちな現場の職長クラスを対象に会長が表彰。(毎年 15 名程度)

- ・ 優れた技能を有し、担当する現場又は部署において優秀な安全成績をあげた職長等 14 名を 2012 年 10 月 18 日の第 4 回保安表彰式にて表彰した。

(2) 学会との連携

井の中の蛙とならないよう、安全工学会、化学工学会等での発表、学会誌投稿等を行い、併せてモチベーションの向上を図る。

- ・ 2012 年 11 月 29～30 日開催の安全工学研究発表会で、石油化学工業の保安への取り組みについて石化協より 3 名が発表した。
- ・ いわゆる市民大学である知の市場の「産業安全論」へ石化協から 7 名の講師が参画した。(2012 年 10 月～2013 年 1 月)

3. 対策強化

最近の事故発生状況に鑑み、保安・衛生委員会にて集中的に議論を重ね、以下の取り組みを新たに行うこととした。

(1) 経営トップによる保安懇談会の開催

各社トップによる意見交換と相互啓発の場として 4 回の保安トップ懇談会を開催。

(第 1 回 2012 年 11 月 29 日、第 2 回 12 月 5 日、
第 3 回 2013 年 1 月 29 日、第 4 回 2 月 26 日を予定)

(2) 危険認識能力強化の演習

最近の重大事故を事例に、感性を高め、危険認識能力を強化する現場課長レベルの討論型演習。

(2012 年 11 月 1 日エチレン保安研究会、11 月 8 日 B T X 保安研究会、
12 月 10 日モノマー第 2 保安研究会、12 月 13 日 S R 保安研究会、
2013 年 1 月 18 日高圧ポリオレフィン保安研究会)

(3) 共有事故情報の深化(本質原因の明確化)

2012 年の石化協会員における事故情報に関して、WG にて本質的な原因が明確となるよう、スクリーニングを行い、会員各社で情報共有を図った。

(4) 各種研究会等を通じた Know-Why の認識強化

現場課長レベルの会議体を通じた Know-Why の重要性の認識強化を行った(2012 年 9 月開催以降の保安研究会で延べ 8 回)。更に今後、各企業の優良事例等の紹介を予定している。

以 上